

五重塔



五重塔は、仏塔の形式の一つ。層塔と呼ばれる塔の形式のうち五重の屋根をもつものを指す。下から地、水、火、風、空からなるもので、それぞれが5つの世界を示し、仏教の宇宙観を表している。

重要文化財マップ

弘前公園に存在する5つの櫓門のうち、他の4つの門は昭和22年(1947年)に重要文化財として指定された。弘前公園の正面玄関ともよばれるこの湯守門は、戦国時代にも初代徳川家康が建てた。この門は、弘前公園の正面玄関ともよばれる。この湯守門は、戦国時代にも初代徳川家康が建てた。この門は、弘前公園の正面玄関ともよばれる。

この丸に2つあるうち3の丸は、杉の大鐘をゆたか、すぐにあるのがこの門です。

三の丸東門

この丸南門

弘前公園の正面玄関ともよばれるこの湯守門は、戦国時代にも初代徳川家康が建てた。この門は、弘前公園の正面玄関ともよばれる。

北の郭北門

中国の古い言い伝えによると、北の守古書神といふA書という書物の神様がいたとされています。

天守

天守は時代の流れにより、A形式からB形式に見られます。大別すると、五重塔と天守という種類に分かれます。

天守は時代の流れにより、A形式からB形式に見られます。大別すると、五重塔と天守という種類に分かれます。

弘前公園

城郭に取りつく敵への攻撃や物見のために造られた。防弾防火のために土蔵造りで、金目板葺きとなっている。

城郭に上りつく敵への攻撃や物見のために造られたもので、防弾防火のために土蔵造りとなっている。

弘前公園に現存する5つの櫓門のうち、他の4つの門は昭和22年(1947年)に重要文化財として指定された。

弘前公園の正面玄関ともよばれるこの湯守門は、戦国時代にも初代徳川家康が建てた。この門は、弘前公園の正面玄関ともよばれる。

弘前公園の正面玄関ともよばれるこの湯守門は、戦国時代にも初代徳川家康が建てた。この門は、弘前公園の正面玄関ともよばれる。

この丸に2つあるうち3の丸は、杉の大鐘をゆたか、すぐにあるのがこの門です。

現存する3つの櫓門のうち、2つは同じ土蔵造りですが、その形や細部に造作の違いが見られます。

現存する3つの櫓門のうち、2つは同じ土蔵造りですが、その形や細部に造作の違いが見られます。

城郭に取りつく敵への攻撃や物見のために造られた。防弾防火のために土蔵造りで、金目板葺きとなっている。

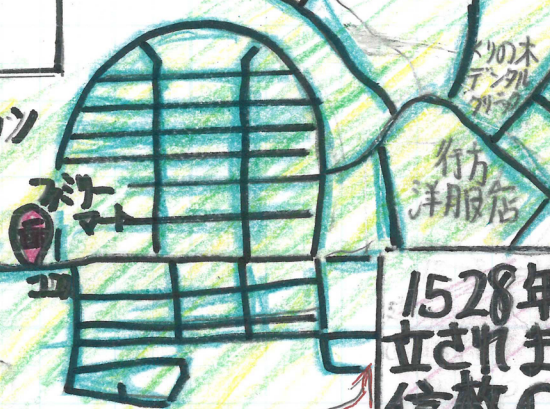
城郭に上りつく敵への攻撃や物見のために造られたもので、防弾防火のために土蔵造りとなっている。

城郭に上りつく敵への攻撃や物見のために造られたもので、防弾防火のために土蔵造りとなっている。

1671年に建てられました。高さ16.2m。円柱を1層から3層までの通柱としています。(三門)

この丸東門
この丸追手門
この丸未由木
この丸丑寅櫓
この丸辰辰櫓

休タウン
弘前市立西小学校



太平山長勝寺
三門

1528年に南部光信のお寺として、種里に建立されました。その後、光信の子孫の津軽信秋の時代の1611年に弘前城にあわせて現在地に移りました。(長勝寺)